

第1回

物語文(1)

ことばの学習

漢字の六書

漢字はそのでき方および使い方によって、次の六つに分けることができます。これを「六書」といい、今日の漢字分類法の基本となっています。

○象形文字

ものの形をかんとした絵に似た絵文字から、形がととのえられてできた漢字。



○指事文字

絵で表せないことから、点や線などの記号を使って表した漢字。



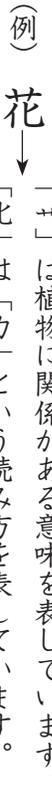
○会意文字

二つ以上の漢字を組み合わせて、新しい別の意味を表した漢字。



○形声文字

二つ以上の文字を組み合わせて、一つが意味を、もう一つが音を表した漢字。



○転注

ある漢字のもともとの意味をほかの意味に転用すること。

(例) 楽

もとは音楽の意味ですが、音楽は聞いていたのしいので「たのしい」の意味にも使います。

○仮借

その字のもとの意味にかかわりなく、読み方だけを借りること。



(1) 次の①～⑥の漢字のでき方はあとのア～エのどれにあたりますか。

それぞれ記号で答えなさい。

- ① 鳴
- ② 板
- ③ 馬
- ④ 晴
- ⑤ 末
- ⑥ 鳥

- ア 象形文字
- イ 指事文字
- エ 会意文字
- 工 形声文字

①
②
③
④
⑤
⑥

漢字の音訓

音読み→中国の発音をもとにした読み方。

訓読み→漢字のもっている意味を日本語で表した読み方。

(2) 次の①～④の漢字の音読みと訓読みを答えなさい。

音読み→シャ
訓読み→くるま
(例) 車

音読み	訓読み	
		① 道
		② 芽
		③ 位
		④ 塩

第2回

物語文(2)

ことばの学習

国語辞典の引き方

国語辞典は、ことばの意味がわからなかったり、漢字をわすれて書けなかったりするときにご利用します。

○五十音順に慣れる

国語辞典のことばは、五十音順にならべてあります。

まず、第一音に「あ」のことばがならび、次に「い」で始まることばがならんでいます。さらに、第一音が同じことばは第二音が五十音順にならび、第二音まで同じものは第三音が五十音順にならび……となっています。

○言い切りの形で引く

「はやく読んだ」ということばを引こうとするときは、「はやく」と「読んだ」では出ていません。「はやく」「読む」という言い切りの形で引かなければなりません。

(1) 次の三つのことばは、国語辞典で引くと、どのような順序にならんでいますか。早い順に□に番号を書きなさい。

くうき (空気)

くんれん (訓練)

くちび (口火)

(2) 次の①・②の——線のことばを国語辞典に出ている言い切りの形に直して書きなさい。

- ① 打てない ② 起きた

①	
②	

漢和辞典(漢字辞典)の使い方

漢和辞典(漢字辞典)は、漢字の読み方や意味を調べるときにご利用します。次の三つの使い方があります。

○音訓引き(「音訓さくいん」で引く)

調べたい漢字の音読み、訓読みのどちらかがわかっているときは、音訓さくいんで調べることができます。

○部首引き(「部首さくいん」で引く)

調べたい漢字の部首を、部首さくいんでさがして、その部首の始まるページを調べ、それから部首以外の画数を数えて、その漢字をさがします。部首とは、漢字を組み立てている部分のうち、いくつかの漢字に共通するものをいいます。たとえば、「付、他、仕」の部首は「イ」(にんべん)、「花、芸、芽」の部首は「艹」(くさかんむり)です。

○総画引き(「総画さくいん」で引く)

漢字の総画数(全部の画数)を調べ、総画さくいんでその字をさがすと、何ページにあるかわかります。

(3) 次の漢字の部首名をひらがなで書き、総画数を漢数字で書きなさい。

① 宿

② 満

③ 議

④ 歌